【ねがいましては】

平成２０年４月７日　　*KYOWA SCHOOL*
第２０９号

「なんとかしなきゃ」

３月２８日（金)、上野動物園への遠足、年長さんがいる、１年生がいる・・・いやーどうなるのでしょうこの遠足。総勢３０名のミニ冒険が始まります。行徳駅集合、初めて会う子たちもいます。お友だちも参加できますということで、数人が初対面になります。長年通ってくれている子たちは、この遠足もどのようなものか知っています。

スタッフは中学生５人、大学生１人、そして私。キップは団体券を購入。

「さて出発しますよ。えー、日本語しゃべれない人いますか？・・・いないね・・・じゃー大丈夫だ。もし迷子になったら自分の日本語をしっかり使って、自分の脳みそしっかり使って、自分の力で帰って来るんだよ。」

目の前の１年生は、ポカーンと目を開いたまま・・・。何を先生言い出したのかな。とんでもないことをしゃべっているぞ・・・。といった表情です。「そんなに固まらなくていいからね。ここは日本です。道路はつながっています。しっかり自分の力で生きていかなくちゃね・・・。」

駅まで子どもをつれて来られたお母さま方も笑っています。

子どもたちにとって、今までの集団移動の経験といえば学校のみという子が多いと思われます。彼らの心の中は一様に『連れてってもらえる』『ついていけばよい』という、受身な気持ちでいる子がほとんどだろうと思っていますので、交通機関がどれほど危険なものなのか、社会がどれほど殺伐としたものなのか、知る由もありません。仲のよい友達が一緒にいれば、兄弟が一緒にいれば何とかなるだろうという安易な気持ちになってしまいます。遠足といってもここが私流の子どもたちにとっての『勉強』の場になります。

助けに来てくれない・・・そのことが脳裏にあることで、これはボーっとしていられないぞという緊張感が宿ります。どうしたら迷子にならずにすむのかなと思ってくれれば大正解です。

『ふざける』・・・これは周りに対しての自分の存在を誇示する行為のひとつになります。「ぼくはこのくらいのこと平気でできるんだぞ。」といった自慢をしたい気持ちで目の前の子に誇示します。つまり目の前の子に不安を感じているために起こります。『ぼくはいざとなったら君より強いんだ・・・。』学校現場では日常普通に見られる光景です。特に新学期、１学期まだまだ友だち関係が確立していない時期には顕著に現れます。『ちょっかいを出す』というのはまさに典型的な現れです。気のちっちゃい子に多く見られる行動です。まったく私を知らない子は、学校しか知りませんので当然出します。面白いくらいに出ます。

私の口癖に、『何が良くて何が悪いかは、自分が決めるんだ。』があります。他人が何をしようとも真似をするのではなく、自分の心の中で決める。このことはほとんどの子たちが聞いています。知らないのは今日ここに来ている初めての子たち・・・。そして失敗させる・・・。

上野駅へ着き、動物園までの道のりの間に、中学生の男子たちに動物園のキップを先に買いに行ってもらいます。しかし普通に歩いている私たちと余り変わらずに彼らは前にいます。道がわからないのです。お互いに道を譲りあっています。「あっちだろ、いやこっちだよ。」責任の所在を自分にされたら大変だと、譲りあってしまいます。つまり、リーダーシップがとれないのです。となりを歩く大人の方に尋ねることもしません。まだまだ自立は遠い世界なのか・・・。

動物園に着きました。天気予報がはずれてポカポカと良い天気、おかげさまで動物園はガラガラ、桜は満開、早速モノレールに乗り動物たちに触れることのできる『こども動物園』へ直行、写真をひとしきり撮った後、自由行動。「どこでお弁当を食べてもいいよ。午後２時にサル山へ集合だからね。じゃねー！」といって三々五々散ってゆきます。不安な子たちはそれぞれグループを作ります。その中でも危なっかしい子たちにそっと私はついてゆきます。４人グループだった女の子たち（１年生３人、３年生１人）が２人・２人になってしまいました。私はそれでも危なっかしい子たち２人の方についてゆきました。どこかへ行ってしまった１年生２人・・・。なんとかサル山に姿を見せてくれるかな・・・。

わたしは園についたとき、ある一枚の紙切れを子どもたちに渡しました。『迷子になったときのくりたのお助け携帯番号』と書かれています。携帯を持たない子は、さてこれをどのように使うのかな。

やがて私の携帯が鳴り始めました。まったく記憶のない番号が表示されています。「はいもしもし。」「あの、こちらは上野動物園の事務所ですが・・・○○ちゃんと、○○ちゃんをお預かりしています・・・。」

いや一立派に使いました。事務所へ行くと２人が泣くわけでなく、ボーっと座っています。「やあ、お迎えですよ。」事務所に働くお姉さんたちは笑顔が素晴らしい優しそうな子たちです。「よかったねー、君たちもこのお姉さんたちのようなお仕事したくなったでしょ・・・。ありがとうございました。」

１年生でありながら、しっかり自分たちで話し合い決断を下しながらとった行動、誰に教わることなく、自分たちで判断できたこと。『すばらしい』の一言ですね。今回のことで、ひとまわり大人になった１年生２人。またまたいい光景を見させていただきました。ありがとう。